4/8/2011

＊キリスト教学演習 （宗教と科学） ＊＊＊＊　　S.　Ashina

＜オリエンテーション＞

Ａ．テーマ：宗教と科学の関係論構築に向けて――キリスト教と環境論（１）――

Ｂ．演習の目的

「宗教と科学」の関係を現代世界の新しい問題連関において解明することは、現代キリスト教思想研究の中心的テーマの一つに他ならない。本年度は、こうしたキリスト教思想研究の動向について、「キリスト教と環境論」（キリスト教的環境論あるいは環境神学）の観点から、アプローチしたい。使用するのは、Dieter T. Hessel and Rosemary Radford Ruether(eds.), *Christianity and Ecology*, Harvard University Press, 2000.である。この論集は、キリスト教と環境論という多面的で錯綜したテーマの全体を論じた大部のものであるが、本年度は、この中より、いくつかの論文を取り上げ、精読してみたい。この演習を通じて、キリスト教思想の現代の動向について、理解を深めることが出来るであろう。

Ｃ．テキストについて

・Dieter T. Hessel and Rosemary Radford Ruether(eds.), *Christianity and Ecology*, Harvard University Press, 2000.

・受講者の事情に応じて、別のテキスト、たとえばドイツ語文献などにテキストを変更・追加することも考えられる。

Ｄ．授業（予習＋出席・発表＋復習）の進め方

１．演習参加者の役割

・担当者：(1)授業前：読み・訳す・分析する　→　レジュメ作成
要旨・問題点・補足事項
(2)授業での発表：内容の説明と議論すべき問題の提供
(3)授業後：まとめ　→　プロトコール（前回の確認と補足）

・担当者以外：テキストの分析
議論への参加

２．前期：4/8, 15, 22, 5/6, 13, 20, 27, 6/3, 10, 17, 24, 7/1, 8, 15, 7/22
後期：10/7, 14, 21, 28, 11/4, 11, 18, 12/2, 9, 16, 28, 1/6, 20,（27）

4/15：テキストの確定、担当者分担スケジュールの決定、Hessel/Ruether（2000）の序論を読む。
4/22：演習のスタート

３．関連研究会・演習に関して
(1)研究会「近代／ポスト近代のキリスト教」

https://sites.google.com/site/kyotochristianstudies/home/modernity

「宗教と科学」関係論にも関連した、近現代のキリスト教思想についての共同研究。個人研究発表を中心に。研究成果の刊行。

(2)「宗教と科学」データベース（http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/user/sashina/sub22.html）

Ｆ．成績について

演習担当　→　平常点

Ｇ．導入

１．環境倫理の諸問題と平等の原理　　　　　　　　　　　　cf.　生命倫理

自然の生存権／世代間倫理／地球全体主義

２．リン・ホワイトの問題提起：聖書は人間中心主義か？

「地の支配」とは？

３．支配と王権イメージ

暴君的な専制君主（王は地上における神の代理)、諸部族の調停者（首位の貴族）

４．人間の固有の使命としての支配、「地の僕」との相補性　→　人間は何者か？

エデンの園の管理者・園丁、種の間の利害の調停者

５．「善悪の知識の木の実」を食べたことがもたらした結果としての地の搾取・破壊

カインとアベルの対立そして殺人、ノアの洪水

人間と自然との連帯性（グローバル化の意味）

６．自然との関係をめぐる近代以前と以後における質的差異

７．西洋がだめなら東洋、近代がだめなら近代以前、これで問題は解決するか？

アニミズムは世界を救うか？

科学技術と議論がかみ合うかという問題（対話可能性)、環境危機は近代世界の問題である。

８．自然との共生のための前提

・欲望のコントロール（欲望の無制限の肯定でも、欲望の完全否定でもなく）

理論だけでなく、感性が問われている。

・正義と対話の精神　→　正義の基準自体が「対話」において明らかにされる。

・共に生きる世界のヴィジョンの共有　→　希望の組織化（髙木仁三郎『市民科学者として生きる』岩波新書）

＜創世記１＞ 27　神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。28 神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

＜創世記２＞ 7　主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

15　主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住まわせ、人がそこを耕し、守るようにされた。16 主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。17

ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」
18 主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」
19　主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。

＜創世記９＞ 9　「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。10
あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。

＜サムエル上　８＞4　イスラエルの長老は全員集まり、ラマのサムエルのもとに来て、5
彼に申し入れた。「あなたは既に年を取られ、息子たちはあなたの道を歩んでいません。
今こそ、ほかのすべての国々のように、我々のために裁きを行う王を立ててください。」6
裁きを行う王を与えよとの彼らの言い分は、サムエルの目には悪と映った。そこでサムエルは主に祈った。

＜イザヤ１１＞ 6　狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育
ち／小さい子供がそれらを導く。7 牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子
も牛もひとしく干し草を食らう。8 乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入
れる。9 わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が
海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。

＜参考文献＞

１．加藤尚武　　『現代を読み解く倫理学』丸善ライブラリー。
２．富坂キリスト教センター編　『エコロジーとキリスト教』新教出版社。
３．岡本裕一朗　『異議あり！　生命・環境倫理学』ナカニシヤ書店。
４．栗林輝夫編　『現代キリスト教倫理４　世界に生きる』日本基督教団出版局。
５．並木浩一　　『旧約聖書における文化と人間』教文館。
６．芦名定道　　『自然神学再考　近代世界とキリスト教』晃洋書房。
７．ドネラ・Ｈ・メドウズ他　『限界を超えて』ダイヤモンド社。